たところ、後に宇野さんが涙を流して喜んだという話を伝え聞いたという。日頃は自身に厳しく生きている宇野さんがふるさとをいかに思っていたかが分かるとも語った。

「その後、宇野さんは生家を直されることを、ここ（教蓮寺本堂）に座って話された」と振り返った。

「宇野さんは4回の結婚、2回の倒産、2回のがん闘病と人生の闇を体験された」との生涯の過酷さに触れながら生家の庭に植えられたもみじ千代の墓の前で千代が愛唱した「桜井の訣別」を歌う顕彰会の会員ら

……に「あのような立派な庭になるとは思いもよらなかった」と優れた美的感覚を称えた。

さらに宇野さんの作品に取り上げられた数々の場面を紹介しながら緻密な取材と裏付けがあったことも紹介した。東京で行われた葬儀で読経するため、岩国から駆け付け、吉永小百合ら多彩な芸能人も参列していたことを語った。

参列者は境内の千代の墓の前に移動、宇野千代が生前好んで口ずさみ、市葬でも会場に流された唱歌「桜井の訣別（けつべつ）」を歌って墓前にささげた。

例年、薄桜忌に合わせ、モンシロチョウが千代の墓の周囲を舞うように姿を現す。今年も白いモンシロチョウが飛来し、参列者は「今年も姿を見せてくれた」と感激しきりだった。

法要と墓参を終え、島津会長は「先生が亡くなって27年となるが、私の年齢も近づいているせいか、だんだん身内のように近づいている気がする」、作品について「何気なく通り過ぎていたことが、今になって分かることもある」と話した。